

はじめに

千歳科学技術大学 学長 川瀬 正明

本学は平成 10(1998) 年に光科学に関わる教育研究拠点の形成を目指して光科学部・2 学科体制で開学しましたが、その後の領域拡大に鑑み、平成 20 (2008) 年に総合光科学部・3 学科体制に組織を変更しました。さらに平成 27 (2015) 年以降、情報系・サービス科学系の充実を図り、かつわかりやすい組織名とすべく理工学部・3 学科体制に改組しています。

このように開学以来、大学のあるべき姿について不断の議論を重ね、改組改革を行って参りましたが、将来を見据えた大学改革を推進し、地域社会における知的・文化的拠点としての中心的役割を担う大学として、これからも一層教育と研究を発展させ、地域に貢献していくために、平成 28 (2016) 年末に公立大学法人化の検討に関する要望書を千歳市へ提出するに至っています。千歳市ならびに千歳市議会においては要請を真摯に受け止めていただき、今年度 9 月の「千歳科学技術大学の公立大学法人化の検討に関する有識者会議」の報告を受けて、10 月には千歳市長より公立化推進の表明があり、年度末には市議会において「千歳科学技術大学の公立化に関する調査特別委員会」から公立化を是とする報告がなされ、公立大学法人設立に向けて大きく前進した年となりました。

地域貢献は従来から教員による公開講座、学生プロジェクトチームの理工工房による理科実験授業等のほか、道内最大規模で推進している高等学校との連携等、精力的に推進してきましたが、公立化の動きも合わせて新たな地域貢献構想 “Smart Nature City ちとせ” を提唱し、そのトライアルも開始したところです。

教育面では前年採択された「大学教育再生加速プログラム 高大接続改革推進事業 V. 卒業時の質保証」の活動が本格化し、全員参加による WG 活動をベースにカリキュラムの再構築等、具体的な取組を進めました。

このほか、先端的ナノテクノロジー研究設備の外部共用を進める文部科学省ナノテクノロジープラットフォームの実施機関として「分子・物質合成プラットフォーム」を構築し、企業等への技術支援を行っています。また、本学を核に産学官共同研究システムの構築を目指す特定非営利活動法人ホトニクスワールドコンソーシアム(略称:PWC)と連携をとって各種研究プロジェクトを推進しています。

大学を取り巻く環境は一層厳しさを増していますが、本学では公立大学法人化という大きな改革に舵を切って進み出したところであり、今後も建学精神の「人知還流」、「人格陶冶」の精神を基本に、教職員一丸となって教育、研究、地域貢献に邁進しておりますので、忌憚のないご意見、ご助言をいただければ幸いです。